

ディアスポラ・アフガニスタン人のコミュニティとネットワーク

—マレーシアフィールドワーク報告—

平成 27 年入学
派遣国：マレーシア
桐原 翠

キーワード：マレーシア，Dr. Mohammad Hashim Kamali，アフガニスタン，ディアスポラ，生存基盤

対象とする問題の概要

研究対象とするアフガニスタンは約 40 年にも及ぶ戦乱を経て、現在もまだ紛争下の国である。長期的に続いた戦乱により、アフガニスタン人の多くはディアスポラとなった。ディアスポラとは自国外へ離散することを指す言葉である。自国を離れたアフガニスタン人は他国でどのような生存基盤を確立しているのか、また自国の現状に対しどのように考え、自国で生活する親族や友人との繋がりを維持しているのかといった点を把握しようとするのが本研究の試みである。

さらに、アフガニスタン人はイスラーム圏と非イスラーム圏に存在している現状がある。本研究はイスラーム圏のアフガニスタン人に着目する。

研究目的

研究の対象はディアスポラ・アフガニスタン人であり、現在の研究対象地域はマレーシアである。マレーシアは多民族国家であり、主にマレー系、中華系、インド系が占めている。多民族が混在する中マレーシアはイスラームを国教としており、国内にはハラール認証付きの食材などが存在する。もちろん国内には中華街やインド人が多く露店を出す通りなども存在している。マレーシアを研究対象地域として選択したのは、アフガニスタンと同じイスラーム圏という理由からである。また、マレーシアにはディアスポラ・アフガニスタン人知識人の一人であるハーシム・カマーリー先生が活動しているためでもある。

本研究の目的は、イスラーム圏においてアフガニスタン人がどのような生存基盤を築き生活しているかという点を明らかにすることである。主に、インタビューを行いディアスポラ・アフガニスタン人の現状を見ていきたい。

フィールドワークから得られた知見について

現地ではカウンターパートであった UKM（マレーシア国民大学）を拠点とし、研究を行った。週 5 日間は研究室に通って研究を行い、同室の研究者とも交流を深めることができた。一方、休日は郊外に出掛けることで文献収集やマレーシア国内の文化に触れることができた。また、マレーシアの民族衣装とヒジャーブを着用しイスラームのお祭りに出掛けるなど貴重な経験ができた。

アフガニスタン人との交流は UKM に在籍する留学生のみであったが、彼らからは現在の生活の様子を知ることができた。さらにディアスポラ・アフガニスタン人知識人の一人であるハーシム・カマーリー先生へのインタビューが実現した。このインタビューは今回の渡航において最も大きな収穫であった。

カマーリー先生がご自身の生存基盤をどのように保っているのかといった点を中心に聞き取り、約1時間30分もの時間を共にすることができた。加えて、カマーリー先生の人柄も知ることができ、充実した時間を過ごすことができた。実際にお話しをすることで、ディアスポラとしての生き方と知識人として活動する生き方の2つの側面を感じることができ、研究への意欲も強くわいた。また、UKMで開催された国際シンポジウムにて発表し、マレーシアの第5代元首相にお目にかかることができた点も自身の研究をより豊かなものにしたといえるであろう。



↑カマーリー先生とのインタビューの様子
(2015年10月2日)



↑国際シンポジウムでの様子(2015年9月28日)
(中央がバダウィ元首相、右から6番目が執筆者)

以上に挙げたような、文献収集、アフガニスタン人留学生へのインタビュー、知識人へのインタビュー、シンポジウムでの発表という成果を得ることができたが、これらは渡航前からの計画に過ぎない。現地で出会ったマレーシア人学生と共に8月31日の独立記念日パレードに足を運び、マレー式の結婚式に4度も招かれ食事や式の準備を手伝うなど計画にはないフィールドならではの経験をすることができた。この経験も自身の研究を豊かにする契機となったといえるであろう。



↑結婚契約の最中、アクド・ニカーフ
(2015年8月29日)



↑結婚式の食事を作っている様子
(2015年8月29日)(右端が執筆者)

今後の展開・反省点

今回のフィールドが初めてのイスラーム圏への渡航であった。文献資料だけではわからないイスラームの文化や、マレーシア独自の文化に触れることができ、自身の知見を広めることができた。一方で、マレーシアに関する事前の勉強が不足していた点を反省しなければならない。今後渡航することを念頭に置き、マレーシアの情勢や知識を蓄えていきたいと考えている。また、次回のフィールドに向けて、語学力を強化しインタビューにも力を入れていきたい。



↑ 8月31日の独立記念日の様子（2015年8月31日）



↑UKMでお世話になった研究室での様子（2015年8月12日）